

# 市長就任にあたって

## 持続可能なまちとして 発展し続けるよう 皆さんとともに

稚内市長 工藤 広

先の市長選挙において、市民の皆さんから温かいご支援と、大きな負託をいただき、4期目となる市政運営の重責を担わせていただくことになりました。

改めてそこに臨むにあたって、私がこれまで訴えてきた、ふるさと稚内の将来について、確かなまちの姿の実現に向けての道標をお示ししたいと思います。

### ◎次世代に残したい、まちの姿の実現に向けて

私はこれまで、「保育所の待機児童ゼロ」、「特別養護老人ホームの待機者ゼロ」、「高校生までの医療費ゼロ」、「3つのゼロ」を掲げ、それを支える10の約束の実現を目指し、市政運営に取り組んできましたが、2020年早々に始まった新型コロナウイルスの感染拡大は、我がまちにも大きな爪痕を残し、また、最も近い外国であるロシアによる、まさかのウクライナへの軍事侵攻は、このまちよりもサハリンとの地理的優位性や、歴史的な関係の深い本市にとって、想像を超えた出来事であり、今後のまちの進むべき方向を大きく狂わせたことは否めません。

しかし、どんな苦難が待っているようにも、このまちの発展を信じない市民は、誰一人としていませんし、次の世代に大きな夢を託しながら、毎日の生活を暮らしています。4年という時間は決して長くはありませんが、次の世代に残したいまちの姿は、市民の皆さんの頭の中におぼろげながら浮かんでいいるはずですし、それを明らかにし、確かな姿を示すことが、この4年の私の大きな役割でもあります。

私は、次の4年に向けて、これまでの「3つのゼロ」を「5つのゼロ」に広げ、このまちが持続可能なまちとして発展し続けるよう、市の総合計画に掲げている「くらしづくり」から「ふるさとづくり」までの5本の柱と、それを支える10の約束をお示しました。職員共々、市民の皆さんと一緒にその実現に全力で取り組んでいきますので、ご理解をよろしくお願いいたします。

### ◎誰もが笑顔で暮らせるまちづくりを

今回の様々な出来事によって、国際的なサプライチェーンが崩され、結果として私たちの生活の隅々までが、大きな影響を受けました。それらから早く脱出するためには、別途、国

## 10の約束

- 市立病院を核とした医療と介護の連携で、市民の安心を守る新たな医療提供体制(在宅医療センター)を作ります。
- 市民の声を聴き、市民と共に、地域共生社会の実現に向けた取り組みを進めます。
- 稚内が誇る基幹産業「酪農」×「漁業」×「観光」で、安定した仕事づくりを進めます。
- 企業の皆さんと積極的に連携し、人手不足への対応と元気な企業活動を支援します。
- 庁舎建設を核とした中央地区の再生と賑わいのある南稚内駅前を整備に取り組みます。
- 空港、港湾、鉄道、道路のネットワーク強化による交通網整備を進めます。
- ふるさと教育を充実させ、地域課題に果敢に挑戦する「わっかない人」を育成します。
- 中央小、稚内中学校において義務教育学校の実現を図ります。
- 稚内が誇る観光地「宗谷岬周辺」の整備を官民の力を結集して進めます。
- 新しいわっかないの姿を全国にアピールするため、サテライトオフィスを設置し、交流人口から関係人口、そして定住への取り組みを進めます。

らの交付金なども利用しながら、日常生活における生活費の軽減を図ることは当然ですが、少子化や人口減少などに直面している、このまちに暮らす子育て世代を中心とした、市民の皆さんの生活の根本を見直すため、喫緊の課題としての「給食費の負担ゼロ」、また、このまちの持続可能性を、豊富な再生可能エネルギーへの新たな取り組みに求め、大規模発電はもちろ

また、市役所の新庁舎も間もなく工事が始まり、令和7年秋には供用開始を迎えますが、中心市街地の一層の活性化と南稚内駅前の賑わいを目指して、整備を進めるとともに、北地区に

改めて私は、これまで培ってきた知識や経験を最大限に活かしながら、ひとつひとつの施策の実現に結び付けることは当然ですが、健全財政の維持は市民皆さんの共通の思いでもありません。そのことを肝に銘じながら任期を全うできるように、市民の皆さんのご支援とご協力をお願い申し上げます。